

ぜん

しん 進

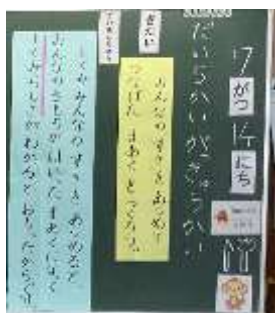
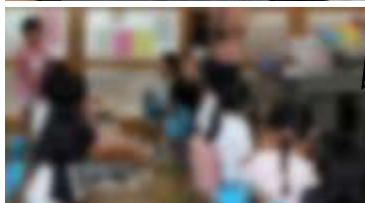
全員で 進もう!



確かな学び通信
2026.7.15

特活小研 /ー/ 「みんなのすきをあつめて つなげた マークをつくろう」

昨日は特活の小研がありました。学級会の入門期である1年生の1学期に難しい議題にチャレンジしていました。子どもたちの思いや意見を司会である授業者がつなげながら合意形成に向けて話し合いを進めていました。学級会での子どもたちの姿を中心に、小研での学びをみなさんと共有したいと思います。



☆議題・提案理由の共有

学級会において、議題や提案理由を共有する時間は、話し合いの土台となる大切な時間です。

昨日の学級会では、なぜこの議題が提案されたのか、これまでの生活の中でどのような意見や思いが積み重なってきたのかを、**通信を活用しながら丁寧にふりかえっていました。**また、提案者が話す場面では、他の子どもたちが真剣にきく姿が見られ、学級全体で話し合いに向かおうとする雰囲気が感じられました。

話し合いの時間を十分に確保したいという思いから、議題や提案理由の共有を簡単に行うこともあります。しかし、自分たちの生活をよりよくするために話し合う学級会だからこそ、**全員が同じ土台に立ち、「何について、なぜ話し合うのか」を共有する時間は欠かせません。**

「今日は〇〇について話し合うんだ。」という目的意識を一人ひとりがもつことで、話し合いを自分事として捉え、主体的に参加する姿につながっていきます。

これまでの国語・生活・算数の研究授業でも共通していたように、**すべての子どもが学びの土台に立てるような手立てが、主体的な学びを支える上で重要であることを改めて確認することができました。**

☆他者の意見を受け止める

昨日の議題は、1年生にとって話し合うには少し難しいのではないかという意見が教科会でも出たそうです。一方で、だからこそ1学期のうちから挑戦し、少しずつ経験を積み重ねていくことが大切であるという提案でもありました。

子どもたちは一生懸命友だちの意見を理解しようと聞き、分からないときは分からないと素直に言葉にしていました。それは**安心して意見を出せる学級の雰囲気があるからだ**と感じました。学級会だけでなく、日ごろの学習や生活の場面でも意識されてきた成果だと思います。

友だちの意見を真剣に聞き、どうということか考え、理解しようとする姿に、**多様な考えを受け止め合える集団**へのつながりが見えました。





☆やってみて考える

「みんなの好きをつなげたマークをつくる」ために、子どもたちはいくつか意見を出しました。その出た意見が実際はどんな感じになるのか、頭の中だけでイメージするだけではなかなか共有できません。特に1年生ならなおさらです。

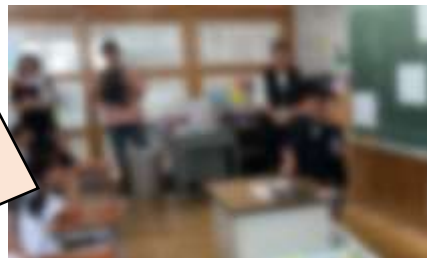
昨日は、比べ合うときに後ろの黒板を使って実際にマークをつくる活動を取り入れていました。大きさや形などイメージ通りになるのか**実際にやってみてみんなで確かめる時間は決めていくうえで大切な手立て**だと感じました。

☆「なんのために」が持続する話し合い

「マークをつくる」ことに子どもたちは焦点化していき、そこに込める思いや提案者の思いから少しずつはなれていく場面もありました。1年生の1学期という時期に、そこをずっと意識して話し合うことは難しいと思います。しかし、「**なんのために**」が**持続する話し合い**はこれから必要になってきます。

討議会では、「提案者に何度か問いかけ、思いに立ち戻るのはどうか」「出てきた意見に込められた思いをキーワード化して掲示するのはどうか」などの意見が出ました。

目的意識が持続するための手立ては、これから教科会を中心にみんなで考えていく一つの視点になると感じました。



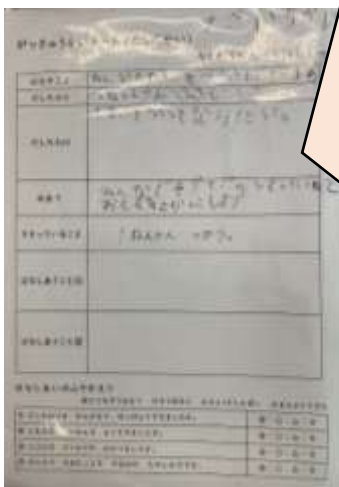
☆考えを表現する場

学級会では、よく意見を発表する子もいれば、一度も全体の場で発言しないまま終わる子もいます。しかし、発言していない子も、友だちの意見を聞きながら一生懸命考え、自分なりの思いをもっています。**その思いをどこかで表現できる場があることで、誰もが安心して参加できる学級会につながっていくのだ**と感じました。

話し合いの中では、「多数決で決めよう」という意見が出されました。実際に多数決を行うと意見が分かれ、「えー、ハートかあ」と納得しきれない様子の子も見られました。十分な話し合いがなされないまま多数決で決めてしまうと、少数意見が十分にいかされないまま終わってしまうことがあります。一方で、幼稚園の先生からは、「多数決は、一人ひとりが『自分はこれがよいと思う』という意思を表明する場でもあるのでは」というお話をいただきました。どのように一人ひとりの意見を知り、受け止めていくのかを考えるきっかけとなりました。

話し合いの場だけでなく、授業者のふりかえりや子どもたち一人ひとりのふりかえりシート、通信での紹介も、子どもたちの思いや考えをすくい上げる大切な機会になります。

授業後には、全体でなかなか意見を言えなかった子が、先生に手紙を渡していました。そこには、「ぼくは、おうかんがよかったです。」と書かれていたそうです。**子どもたちは、それぞれ自分なりの方法で考えを表現しています。**さまざまな表現を受け止め、一人ひとりの意見を大切にしながら学級全体で共有することが、教師の大切な役割の一つだと改めて感じました。



学期末のお忙しい中、
ありがとうございました！